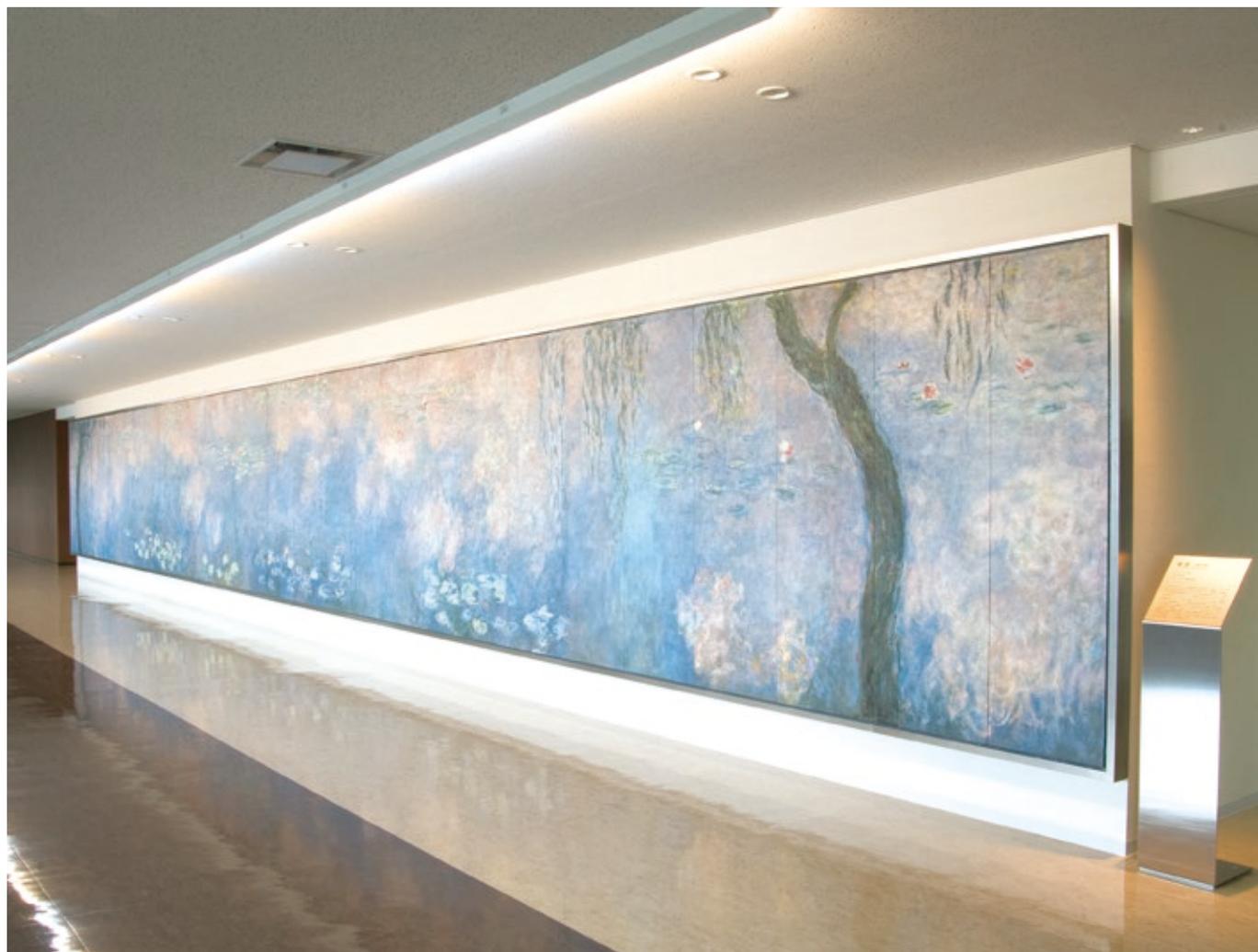


# 関西医科大学 広報



枚方学舎医学部棟3階に掛かる、クロード・モネ《睡蓮》の原寸大陶板画。

## 学舎に掛かるモネ《睡蓮》

Vol.47

### CONTENTS

大学：西日本医科学学生総合体育大会

P.1

大学：山中伸弥客員教授講義

P.10

大学：大学院学位記授与式

P.7

大学・病院：災害訓練

P.14

大学：全国医学部国際交流協議会・講演会

P.9

病院：関医訪問看護ステーション・くずは移転

P.16



## 第71回西日本医科学生総合体育大会（西医体）開催

8月5日(月)から19日(月)の二週間、本学が代表主管校となり、第71回西日本医科学生総合体育大会(西医体)が開催されました。前回本学が主管校となったのは第28回大会であり当時の参加校は35校、43年後の今年は44校でした。今回の大会は全20競技、総参加人数は21,407人で、本学からの参加人数は570人。近畿2府3県にまたがり30以上の会場で実施されました。本大会では友田幸一学長が大会長を、福永幹彦学生部長が西医体連盟理事長を、医学部4年生高島寛之さんが大会運営委員長を、同4年生田鍋智世さんが連盟書記を、その他本学4年生が各役職を務めました。

また大会に先立ち8月3日(土)には、リーガロイヤルNCB(大阪市北区)にて理事会、開会式とレセプションが行われました。

過去の事故を参考とした安全対策の徹底などにより大会は無事に終了し、本学はサッカー部が優勝、個人では男子陸上棒高跳びで優勝という結果を残しました。



開会式の様子



大会運営委員長の医学部4年生高島寛之さん



サッカー部2回戦



試合で勝利を決めたサッカー部



## モネ《睡蓮》について

枚方キャンパス医学部棟3階廊下に、フランスの印象派画家クロード・モネが描いた《睡蓮：二本の柳》(Les Nymphéas: Les Deux saules)の陶板画が設置されました。

これは、パリ(フランス)のオランジュリー美術館の二室を飾る《大睡蓮》のうち、第二室東面を飾る《睡蓮：二本の柳》を陶板により複製したものです。

オランジュリー美術館の《大睡蓮》の部屋は、二つの楕円形の部屋をつないだ形で作品が展示されており、各室は4面のワイド・スクリーンの絵画で飾られています。《大睡蓮》は、モネの86年の生涯の集大成とも言える作品。水面に反映するデリケートな光と色彩、そこにひっそりと息づく睡蓮は、光と色調の変化、一日の時間の推移を暗示しています。

モネはあるとき、《大睡蓮》の与える精神的効果を、“心静かな瞑想の場”と語ったとのこと。その言葉通り、この作品が心に静けさと癒しを与えるものとなることを願い、設置されました。



剣道(男子)



力強い泳ぎを見せる水泳部員



バスケットボール部(男子) 1回戦



4×50mメドレーリレー

## 日本私立医科大学協会三役会・拡大理事会開催

10月10日(木)、枚方キャンパスにおいて一般社団法人日本私立医科大学協会の三役会・拡大理事会が開催されました。

この会議は加盟校29校が順番に当番校になって、加盟する全法人の理事長、学長の参加のもとに開かれるもので、本学が当番校となるのは29年ぶりになります。

11時30分からの三役会終了のあと、医学部棟加多乃講堂での本学紹介プロモーションビデオ放映後、大学・附属病院内の施設見学が実施され、14時30分からは理事会が開催。理事会の終了後は医学部棟4階のカフェテリア・屋上庭園において懇親会が催されました。懇親会では晴天の下、淀川の流れを臨みながら食事に談笑にと終始和やかな雰囲気、途中本学混声合唱団コールクラ

イスによる合唱に喝采を浴び、名残惜しまれる中、閉会を迎えました。



懇親会であいさつをする山下敏夫理事長(中央)

## 第2回関西医科大学地区医師会役員合同懇親会

8月25日(日)18時から、リーガロイヤルホテル(大阪市北区)にて、「第2回関西医科大学地区医師会役員合同懇親会」が開催されました。

この懇親会は、本学医師会活動を活発化することを目的として、本学卒業の各地区医師会役員の医師との懇親の場として開催されたもので、大阪府医師会茂松茂人会長を招き、県外からは奈良県医師会広岡孝雄会長や、滋賀県医師会小西真副会長など、本学卒業生総勢54名が参加しました。冒頭、本学医師会木下利彦会長(精神神経科学講座教授)の挨拶の後、各地区の医師会を通じて本学との地域医療連携を深めるとともに、大阪府医師会活動にも可能な限り協力することなど、今後の医療情勢を見据えた相互の意見交換と親睦が図られました。

## 本学大学院講座でグレッグ・セメンザ博士が講演

9月26日(木)18時から枚方学舎医学部棟2階第2講義室において大学院講座第788講が開講され、ジョンズ・ホプキンス大学(アメリカ)教授で2019年のノーベル医学生理学賞受賞者のグレッグ・セメンザ博士が登壇しました(ノーベル賞受賞の決定は10月7日)。この日の司会を務めた附属生命医学研究所侵襲反応制御部門廣田喜一学長特命教授が、かつてセメンザ博士のラボで研究していたことが縁で実現したこの日の講義では、「Advice for a young scientist」をテーマに同博士が探索と研究、良き師、計画の重要性、セレンディピティについてなどを講演。参加者にとって、世界の第一線で活躍するセメンザ博士が考える“科学とは何か”に触れる貴重な時間となりました。

セメンザ博士からは最後に、「You are where I once was, I am where you will someday be.」とのメッセージが贈られました。



講演したグレッグ博士(左)と、司会を務めた廣田学長特命教授(右)

# 「施設設備整備拡充資金」の募集のご案内

## 【募集要項】

- 募集対象  
本学学生の保護者、同窓会員、本学関連の個人および法人その他
- 申込方法及び払込方法  
法人事務局財務部募金室に寄付金申込書をご提出(送付)いただいたうえで、本学指定の銀行口座に振込み、又は、ご持参ください。

## 【税制上の優遇措置】

### ●個人の場合

最大 40%が減額されます

#### ■所得税(どちらか一方の制度を選択)

##### (A) 所得控除(「寄附金控除」)

寄付金額から2千円を差し引いた金額を所得金額から控除できます。所得控除を行なった後に税率を掛けるため、所得税率が高い高所得者の方に減税効果が高くなります。※寄付金額は総所得金額等の40%が限度となります。

##### (B) 税額控除(「公益社団法人等寄附金特別控除」)

寄付金額から2千円を引いた額の40%が税額控除の対象額となります。税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口の寄付に減税効果が高くなります。

#### ■住民税

お住まいの市町村の条例により個人住民税において寄付金税額控除の対象となることがあります。詳しくはお住まいの市町村の住民税担当課にお問い合わせください。

### ●法人の場合

受配者指定寄付金制度を利用することで寄付金全額が損金算入されます。

12月中にご寄付いただきますと、令和元年分確定申告に間に合います。是非ご検討ください。

## 【お問い合わせ先】

関西医科大学法人事務局募金室 〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号  
TEL: 072-804-2146 FAX: 072-804-2344 メール: bokin@hirakata.kmu.ac.jp HP: <http://www.kmu.ac.jp/donation/index.html>

なお、この募金の応募は任意です。

令和元年7月から令和元年9月までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。 **ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。**

# 関西医科大学創立90周年記念事業募金寄付者銘板のご案内

創立90周年記念事業募金の募集に際しましてお寄せいただきました貴重なご芳志を末永く顕彰するため、寄付者銘板を作成設置いたしました。ご寄付いただきました皆様のご芳名は枚方学舎医学部棟1階エレベーター横に、さらに同窓生の寄付者様のご芳名は牧野キャンパス牧野講堂(武道館)玄関に、さらに同窓生の特別寄付者様は武道館内壁面に特別顕彰として個別にご芳名を掲額させていただきました。ご来校の際はどうぞお立ち寄りください。

### ■寄付者様全員(枚方学舎1階エレベーター横)



### ■同窓生寄付者様 [牧野キャンパス牧野講堂(武道館)玄関]



### ■同窓生寄付者様 [牧野キャンパス牧野講堂(武道館)壁面]



なお、匿名をご希望の方は掲載しておりません。



# 今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	8月25日	関西医科大学医師会合同懇親会
	10月10日	私立医科大学協会拡大理事会
	7月5日	山中伸弥客員教授講義
	7月8日	研究ブランディング事業キックオフシンポジウム
	7月13日	枚方4大学合同入試説明会
	7月17日	日経ウーマノミクスフォーラム
	7月19日	全国医学部国際交流協議会
	7月23日	iPS細胞自動培養装置披露会
	7月24日~26日	バングラデシュからの研修員受入
	7月26日	関医・看護師リカレントスクール修了式
大学	7月27日	看護学部オープンキャンパス
	7月27日	門真市運動・スポーツ習慣化促進事業業務委託締結
	8月3日	医学部オープンキャンパス
	8月3日	西日本医科学生総合体育大会開会式
	8月5日~19日	西日本医科学生総合体育大会
	8月6日	科学研究費補助金説明会
	8月7日	枚方市の防災対策にかかる官学合同会議
	8月9日	チュービンゲン大学留学生来学
	8月10日	健康沿線®トークカフェ
	8月30日~31日	大学院選択必修コースリトリート合宿
	9月8日~13日	バングラデシュ国看護サービス人材育成プロジェクト
	9月14日・15日	研究医養成コースコンソーシアム合宿
	9月17日	Princess of Naradhiwas University(タイ)留学生来学、学長面会
	9月24日	大阪医科大学との単位互換協定締結式
	9月24日	2019年9月度大学院学位授与式
	9月26日	解剖体慰霊碑供養
	9月26日	大学院講義第788講 グレグ・セメンザ教授講演
	9月27日	第2回大学院企画セミナー
	9月28日	医学教育ワークショップ
	9月28日	難病の理解を深め啓蒙するための市民公開講座
10月8日	学生からの教育評価に基づく教員の表彰式	
10月17日	平成30年度学長賞授与式	
大学・附属病院	9月21日	災害訓練
附属病院	7月26日	一日看護師体験
	7月31日	がんゲノム医療講演会
	8月28日	子ども病棟夏祭り
	9月7日	市民公開講座
総合医療センター	9月26日	アレルギーセンターシックハウス勉強会
	7月19日	精神疾患・身体合併症センター開設1周年記念懇談会
香里病院	8月8日・9日	滝井セミナー
	8月17日	総合医療センターサマーコンサート
7月20日	香里サマーコンサート	
9月7日	出張医療セミナー	
くずは病院	8月1日	訪問看護ステーション移転オープン
附属看護専門学校	9月20日・21日	球技大会・学校祭
卒後臨床研修センター	7月7日	レジナビフェア2019大阪(初期研修)出展
	7月13日	実地指導者研修
	7月19日	臨地実習指導者研修
	7月20日	実地指導者研修
	7月25日	看護管理者研修
	7月26日	2020年度初期臨床研修医採用試験(第1回)
	8月2日	2020年度初期臨床研修医採用試験(第2回)
	8月31日	2020年度採用専攻医研修説明会(第2回)



健康沿線®トークカフェ



Princess of Naradhiwas University 留学生来学



2019年9月度大学院学位記授与式



第2回大学院企画セミナー



アレルギーセンターシックハウス勉強会

## 大阪医科大学医学部と関西医科大学医学部との単位互換に関する協定締結式

9月24日(火) 13時から大阪医科大学(高槻市)において「大阪医科大学医学部と関西医科大学医学部との単位互換に関する協定締結式」が執り行われました。

大阪医科大学からは大槻勝紀学長、医学教育センター瀧谷公隆副センター長、藤原佐智主任らが、本学からは友田幸一学長、野村昌作副学長他が出席しました。両学長のあいさつに続いて協定書に署名を行い、写真撮影を実施。その後参加者らが意見交換を行い、和やかな雰囲気の中で協定締結式は終了しました。

今後は両大学でも国内外の他大学と積極的に提携協定の締結を模索していく予定です。



協定書を手にする友田学長(右)

## 2019年度オープンキャンパス開催

### 医学部

8月3日(土) 9時50分から、枚方キャンパスにおいて2019年度第2回医学部オープンキャンパスが開催され、多くの受験生や保護者が訪れました。

9時50分からプログラム案内の後、松田公志副学長の挨拶、カリキュラム説明、キャンパスライフ説明が行われました。また引き続き入試概要説明や地域枠の説明も行われました。模擬講義では「最新医学(ゲノム医療・免疫チェックポイント)を病理学で斬る」と題して、臨床病理学講座葛幸治教授が講義。在学生トークイベントでは現役医学部生2名が受験勉強の方法、学生生活について発表。満席となった会場で参加者は学生の“生の声”に聞き入っていました。その他無料学食体験やBLS(一次救命処置)体験コーナーなどが設けられ、学生生活をイメージしながら体験に取り組む姿が見られました。

「病院見学」では、附属病院の臨床検査部や中央手術部、健康科学センター、放射線部を見学。参加者からは担当教員の熱心な説明が好評でした。



病院見学にて実際の機器を使用した体験の様子

### 看護学部

7月27日(土) 10時から、枚方キャンパスにおいて2019年度第2回看護学部オープンキャンパスが開催されました。

10時から看護学部片田範子学部長の挨拶、カリキュラム説明、入試概要説明、見所紹介が行われました。その後、11時からは各場所でイベントがスタート。模擬講義では「妊娠・出産・育児を支える看護を学ぼう」と

題して、母性看護学領域の酒井ひろ子教授が講義。立ち見も出る盛況具合となりました。また模擬体験コーナーでは、学内演習で使用する高機能シミュレータや赤ちゃんの沐浴体験・高齢者疑似体験ブースが設けられました。

11時30分からは在学生と教員によるキャンパスライフ説明が行われ、受験勉強や学生生活などについて学生の生の声を披露し、ところどころ笑いも起こる和やかなムードとなりました。

さらに個別相談会では、入試などについて教員に相談できる受験相談ブースや学納金・奨学金相談ブースに加え、在学生に直接話ができる学生相談ブースが設置され、学生生活や、受験生時代に実践した勉強法などについて、熱心に相談する様子が見られました。

そして予約で満員となった人気プログラム「病院見学」では、附属病院の病棟や高度救命救急センターを見学。通常入ることのできないエリアも見学できる機会に、参加者は興味津々の様子でした。



学生・教員によるキャンパスライフ説明

## 解剖体慰霊碑供養挙行

9月26日(木) 11時から臨済宗建仁寺派大本山建仁寺の塔頭正伝永源院(京都市東山区)において、山下敏夫理事長、友田幸一学長はじめ教職員が参列し、2019年度解剖体慰霊碑供養が営まれました。これは、自らの遺志と無条件・無報酬の篤志をもって、医学の発展のためにご遺体を提供された御霊を供養する儀式です。僧侶による読経の声が響く中、参列者は感謝と哀悼の意を込めてご冥福をお祈りしました。



慰霊碑の前で読経を捧げるご住職と参列者

## iPS細胞自動培養装置披露会

7月23日(火) 9時30分から枚方学舎医学部棟12階iPS・幹細胞再生医学講座において、同講座に導入されたiPS細胞自動培養装置の披露会が行われました。この装置は京都大学とパナソニックプロダクションエンジニ

アリング株式会社が共同開発したもので、これまで手作業で行っていたヒトiPS細胞の維持を、長時間安定的に自動で実施できます。今後は、本学と本社との医工連携により、同装置をiPS細胞の本領発揮となる、多様な細胞種への自動分化を可能とすべく、改良・開発するための共同研究が予定されています。

披露会では、大学院医学研究科イノベーション再生医学服部文幸研究教授の司会のもと、友田幸一学長、パナソニックプロダクションエンジニアリング株式会社柳本努代表取締役社長の挨拶があり、その後自動培養装置の実演が行われました。実演後は装置について質疑応答が交わされ、木梨達雄副学長の挨拶で披露会は終了となりました。



自動培養装置前での集合写真

## 大学院学位記授与式

9月24日(火) 15時30分から枚方学舎医学部棟4階中会議室において、友田幸一学長をはじめ木梨達雄研究担当副学長、藤澤順一大学院医学研究科教務部長らが列席し、「2019年度9月学位記授与式」が挙行されました。新たに誕生した医学博士7のうち、当日出席した6名に友田学長から学位記が授与されました。その後の学長告辞では学位取得者の努力に対するねぎらいの言葉が述べられ「医学博士というものに誇りを持ち、こ

れからは後進の指導に尽力してほしいとのエールが贈られました。



学位記を手に写真に納まる修了生ら

## 門真市と連携して運動・スポーツ習慣化促進事業を実施

学校法人関西医科大学は、スポーツ庁の2019年度「運動・スポーツ習慣化促進事業(以下、本事業)」の委託機関として、門真市と業務委託契約を締結しました。

本事業は、運動・スポーツの習慣化を図ることで健康の増進と健康寿命の拡大を目指し、今年度、モデル的に実施するものです。この委託契約により健康科学教室(木村穰教授)は、門真市医師会会員をかかりつけ医とする60歳以上の門真市民に対し運動指導と、アプリによって標準化されたプログラムの処方、実施記録データ、効果検証を無料で提供します。

今回の委託契約は2020年3月31日までで、期間中は専門の研修を受講した運動指導者が協力医療機関にて運動指導を行い、体を動かすことの楽しさや面白さを体験してもらいます。さらに、近隣の運動施設を紹介して継続的に運動を行うよう誘導し、運動・スポーツの習慣化を図ります。

## 大阪乳児院との連携協定締結

学校法人関西医科大学は、社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会大阪乳児院(院長・大和謙二)と、産前・産後母子支援事業における相互の連携強化のため、連携協定を締結しました。

本協定は、産前・産後母子支援事業において相互の連携を強化することにより、産前・産後に支援が必要な母子に対する幅広いサポートを提供するだけでなく、子どもに加えて親自身の人間的成長の促進に寄与することが目的で、本学は看護学部母性(助産)看護学領域酒井ひろ

子教授を中心に連携事業を進めています。また、併せて「性・生教育」事業を展開することで未成年者の望まない妊娠と、それによる“貧困の次世代連鎖”の予防を目指しています。

### ■連携協力事項

- (1)産前・産後母子支援事業に関すること
- (2)性と生殖についての予防事業である「性・生教育」
- (3)事業の有用性についての実証的評価に関すること
- (4)その他本協定の目的に沿うこと

## 研究ブランディング事業キックオフシンポジウム開催

7月8日(月)17時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「研究ブランディング事業キックオフシンポジウム」が開催され、教職員他80名が参加しました。

これは、本学が文部科学省平成30年度研究ブランディング事業「難治性免疫・アレルギー疾患の最先端研究拠点大学としてのブランド形成」に選定されたことを受けて開催されたもの。

友田幸一学長の開会挨拶の後、木梨達雄副学長が研究ブランディング事業概要を説明。その後は附属病院アレルギーセンター金子一成センター長による同センター概要説明に続き、内科学第三講座岡崎和一教授が「IgG4疾患の研究について」、国立病院機構相模原病院臨床研究センター谷口正実センター長が「成人アレルギー領域における臨床研究の現状と課題」、京都大学大学院医

学研究科分子生体統御学講座医化学分野竹内理教授が「RNA分解による自然免疫制御機構」とのタイトルでそれぞれ講演を行いました。講演後は医学部棟4階カフェテリアにおいて情報交換会が行われ、シンポジウムに集まった研究者らが談笑する姿が見られました。



事業概要を説明する木梨副学長

## 全国医学部国際交流協議会・講演会を開催

7月19日(金)13時から枚方学舎医学部棟において第10回全国医学部国際交流協議会・講演会が開催され、全国の医療系学部を持つ大学の国際交流センター関係者・医学部の留学担当者・医学部英語教育担当者などの会員と学生・留学生ら約130名が出席しました。

旧全国医科大学国際交流センター連絡協議会が昨年7月に一般社団法人となり、「全国医学部国際交流協議会」J-MICA (Japanese Medical University International Collaborative Assembly)と、名称を一新。第10回目となる記念大会を、本学が担当しました。

この協議会は、全国の医学部ならびに医科大学との間で学生・研修医・大学院生・医師の国際交流を活発にし、若い医師の国際的な交流活動を支援することで国際的に活躍出来る人材の養成と、諸外国医科大学との連携を図ることを目的としています。また、わが国の医学教育体制のグローバルスタンダード化を目指し、各医科大学の連携、情報の共有のために開催しています。

この日は友田幸一学長の挨拶に続き、国際交流センター鈴鹿有子センター長の司会進行のもとベルリッツ・ジャパン株式会社人財開発営業室清水高明室長が、「留学に必要な英語力」と題して講演。続いてオープンラウンジでは9題のポスターセッションが行われました。また、加多乃講堂では「外国人留学生の実情と課題」をテーマ

にミニシンポジウムが開催。本学のラオス出身留学生をはじめ、日本医科大学のエジプト出身留学生、金沢医科大学の中国出身留学生、群馬大学のモンゴル出身留学生の4名が代表してプレゼンテーションを行いました。発表の中で言語の壁が日本留学での一番の課題であると4名ともが述べたものの、日本語を交えた発表は素晴らしいものとなりました。

なお、今回は併せて総会が開催され、定款等が承認された他、最後に懇親会が開催されました。次回に向けてメンバーを増やしての再会が約束されました。



シンポジウムで発表する本学の留学生・Pheopphet氏

## ラオス国立健康科学大学と学術交流協定締結

本学は、2019年9月、国際理解の促進と親善の深化、双方の発展と相互利益のため、ラオス国立健康科学大学(ラオス)と学術交流協定を締結しました。今後は研究に関する資料・出版物・情報の交換、通信(遠隔)教育コースの支援、共同研究プログラムの組織化、学生の相互派遣、教員の相互派遣、事務職員他の相互派遣、双方の機関での学生採用などの諸方面で協力体制を築く予定です。

## チュービンゲン大学学生来学

8月8日(木)、本学と学術交流協定を結ぶチュービンゲン大学(ドイツ)から医学部4学年学生のRobin Louis Roediger氏が来学しました。翌9日(金)にRoediger氏は、友田幸一学長および国際交流センター鈴鹿有子センター長と面会。その後、9月11日(水)まで本学に滞在し、附属病院麻酔科と附属病院および総合医療センター救急医学科で臨床実習を行いました。臨床実習では手術室での挿管などに取り組み、他にもシミュレーションセンターの見学や、光ファイバーを用いた挿管、胃内視鏡、中心静脈カテーテルといった医療技術を本学所属医師から習うなどしました。



友田学長(中央)・鈴鹿センター長(右)と面会するRoediger氏(左)

## 「 Bangladeshからの研修員受入

7月24日(水)～26日(金)にかけて、独立行政法人国際協力機構(JICA) Bangladesh看護サービス人材育成プロジェクト看護管理研修コース研修員を本学看護学部で受け入れました。Bangladesh人民共和国ダッカ看護大学の教員とダッカ医科大学病院看護部の管理職職員が研修員として来訪。友田幸一学長、看護学部片田範子学部長の挨拶により、本学での研修が幕を開けました。滞在中は、研修員によるBangladeshでの看護の実情のプレゼンテーション、本学教職員との交流会、カリキュラムやシラバス・演習に関する講義、看護学部棟のシミュレーション施設見学、安田照美統括看護部長による

病院説明や、附属病院見学などが行われました。



友田学長(左から5人目)、片田学部長(同6人目)と研修員

## 「 Bangladesh国看護サービス人材育成プロジェクト」で近藤教授が現地視察

9月8日(日)～13日(金)にかけて、看護学部近藤麻理教授(国際看護学領域)が、独立行政法人国際協力機構(JICA)調査団「看護サービス人材育成プロジェクト運営指導調査」の一員として、Bangladesh人民共和国に派遣されました。

同国のプロジェクトでは、看護師の人材確保とレベルアップのために、ダッカ看護大学とダッカ医科大学病院看護部による看護学生の臨地実習の強力な連携が行われており、7月24日(水)～26日(金)に実施された本学看護学部と関西医科大学附属病院看護部での研修の成果が活かされていました。

今回の派遣では、ダッカ看護大学とダッカ医科大学病

院の視察、キャリアパスの講演、在Bangladesh日本大使館とJICA事務所での報告会などを行いました。



現地で講演する近藤教授

## 山中伸弥客員教授の講義実施

7月5日(金)15時40分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、山中伸弥客員教授(京都大学iPS細胞研究所所長)による特別講義が行われました。講義は本学医学部・看護学部の1学年に向け「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」と題して行われ、集まった学生や教職員が熱心に聴講しました。

また山中客員教授は、iPS・幹細胞再生医学講座に7月に導入されたパナソニック株式会社製のiPS細胞自動培養装置を見学し、講座員を激励。その際、本学の研究医養成コースを志望している学生らとも顔を合わせました。講義後、カフェテリアで行われた懇親会では山中客員教授と直接話す機会を得た学生たちは大いに刺激を受

け、今後研究医となるモチベーションをさらに高めていました。



山中客員教授、友田幸一学長、講座メンバーと医学部・看護学部学生

## 研究医養成コースコンソーシアム合宿

9月14日(土)・15日(日)の2日間、ホテルクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)において「研究医養成コースコンソーシアム合宿」が1泊2日で開催され、コンソーシアムに参加している本学、大阪医科大学、兵庫医科大学、奈良県立医科大学、神戸大学医学部の学生・教職員合わせて60名程が参加しました。

大学や学年の枠を越えて、初日はポスターセッション、2日目にはグループワーク発表を実施。参加教員による講演では、学生から研究者顔負けの質問も飛び出し、熱心に取り組む姿が見られました。年々、学生の意欲や研

究活動も高まりを見せており、例年以上に有意義な2日間となりました。



参加教員および学生ら

## 大学院選択必修コースリトリート合宿

8月30日(金)・31日(土)、ホテルクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)において大学院選択必修コースリトリート合宿が1泊2日で開催され、大学院医学研究科の大学院生と教員あわせて119名が参加しました。3、4学年による研究中間発表では、4つの選択必修コース(細胞の増殖と分化コース、体の高次機能コース、形態形成と老化コース、社会と健康コース)から優秀者を1名ずつ選出し、懇親会で表彰しました。2日目には、表彰された優秀者らが改めて研究内容を全員の前で発表し、受講者は熱心に聞き入っていました。教員による講義では、参加者から「他分野の講演を聴けて興味深かった」などのコメントが寄せられ、好評のうちに終了しました。

### 【研究中間発表優秀者】

細胞の増殖と分化コース 3学年	廣田 麻美さん
体の高次機能コース 3学年	Thi My Nhungさん
形態形成と老化コース 3学年	藤原 敬太さん
社会と健康コース 3学年	田中 千春さん



参加者による集合写真

## 第37回医学教育ワークショップ

9月28日(土)10時30分から枚方学舎医学部棟2階第2講義室、学生セミナー室、各会議室及びカンファレンスルームにおいて「第37回医学教育ワークショップ」が開催され、教職員51名、学生8名の計59名が参加しました。今年のテーマは『関西医大教育理念を再考する』とし、建学の精神・大学の使命・教育の理念や、ディプロマポリシーについての講演の後、本学医学部のディプロマポリシー達成のための具体的な教育方法について討議しました。

グループ討議内容の発表や事後アンケートでは有意義

な意見が多数挙げられ、今後の医学教育に活かされていく予定です。



友田学長、野村医学部教務部長、西屋学長特命教授と参加者

## 平成30年度学長賞授与式を挙

10月17日(木)正午から枚方学舎医学部棟4階中会議室において、「平成30年度学長賞授与式」が執り行われました。今回は、第26回よませ全国学生スキーチャンピオンシップ大会女子団体において1位となった競技スキー部女子チーム(医学部5学年大澤加奈子さん、医学部5学年八田日菜子さん、医学部4学年鈴木唯加さん、看護学部2学年小代彩加さん)、2018年関西地区大学準硬式野球連盟秋季関西医歯薬1部リーグ戦において優勝した準硬式野球部に、友田幸一学長から表彰状と副賞が贈られました。

その後挨拶に立った友田学長は、日頃の勉学と並行して積み重ねた受賞者の努力と栄誉を称え、「素晴らしい

成績を挙げられて、試験勉強なども大変だろうが、今後とも後輩の指導も引き続きお願いしたい」と激励しました。



記念写真に収まる友田学長(中央)と受賞者ら

## 2019年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式

10月8日(火)15時40分から枚方学舎医学部棟4階中会議室において「2019年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式」が行われました。これは本学医学部教員の教育活動を奨励し、その資質の向上を図ることを目的とするもの。学生による授業評価アンケートの結果に基づき高い評価を得た教員もしくは科目を「関西医科大学教育奨励賞」として表彰しています。この日の表彰式では、2019年度表彰の対象となった教員に友田幸一学長から表彰状が手渡されました。



表彰状の授与風景

### 受賞者 受賞科目一覧

#### ▶ 教育奨励賞

##### 準備教育・基礎医学統合コース

1位	生体の構造と機能 A1 (1) (1 学年)
2位	医学英語 A1 (1) (1 学年)
3位	生体の構造と機能 C1 (2) (1 学年)

##### 教養・基礎社会系科目

1位	法医学 (3 学年)
2位	薬理学 (3 学年)
3位	衛生学 (3 学年)

##### 教員部門

###### 1 学年

1位	川浦 孝之 助教 (数学)
2位	丸山 正人 講師 (解剖学 2)
3位	加瀬 政彦 講師 (解剖学 2)

###### 2 学年

1位	大江 総一 助教 (解剖学 1)
2位	丸山 正人 講師 (解剖学 2)
3位	小池 太郎 助教 (解剖学 1)

##### 臓器別系統別コース

1位	病理診断学コース (4 学年)
2位	加齢老化・リハビリテーションコース (4 学年)
3位	内分泌・代謝コース (4 学年)

##### 臨床実習科目

1位	臨床病理学 (5 学年)
2位	腎泌尿器外科学 (5 学年)
3位	小児科学 (5 学年)

###### 3 学年

1位	吉村 晋一 准教授 (脳神経外科学)
2位	三島 伸介 助教 (衛生・公衆衛生学)
3位	赤間 智也 准教授 (薬理学)

###### 4 学年

1位	大江 知里 講師 (臨床病理学)
2位	宮坂 知佳 助教 (臨床病理学)
3位	中村 聡明 准教授 (放射線科学)

#### ▶ 教育努力賞

##### 科目部門

心臓血管外科学 (5 学年)
----------------

##### 教員部門

今年度は対象なし
----------

## 「日経ウーマノミクスフォーラム」に参加

7月17日(水)10時からハービスホール(大阪市北区)において開催された理系進学を目指す高校生を対象としたイベント「日経ウーマノミクスフォーラム」に、本学が参画しました。当日は救急医学講座中村文子助教、看護学部クリティカルケア看護学領域山口真有美助教が「救急医療における女性医療職の役割」と題したミニセミナーを実施。救急医療の現場での勤務、医療職を目指したきっかけ、医療職のやりがいなどの講演内容に、聴講者は興味深げに耳を傾けていました。また、進学相談に対応する個別相談ブースにも多くの相談者が訪れました。他にもフォーラムでは「求められる人材と女性活躍」

と題した基調講演や参加高校生による座談会、ディスカッションなどが行われました。



ミニセミナー中の中村助教(右)、山口助教(左)

## 「枚方市の防災対策にかかる官学合同会議」および「避難所運営訓練」開催

8月7日(水)13時30分から摂南大学枚方キャンパス7号館(大阪府枚方市)において、枚方学術プラットフォーム主催による、「枚方市の防災対策にかかる官学合同会議」および「避難所運営訓練」を、同プラットフォームに参画する枚方市内4大学(摂南大学、大阪工業大学、大阪歯科大学、関西医科大学)から30名の教職員が参加し、開催されました。

地区で震度7の地震が発生したことを想定し、摂南大学の学舎の配置図をもとに地域住民からの受入について、参加者を4グループに分け、各グループで机上訓練を行いました。

まず「枚方市の防災対策にかかる官学合同会議」が行われ、枚方市の危機管理監が「枚方市における防災対策」について講演を行いました。

続いて行われた「避難所運営訓練」では、摂南大学薬学部串畑太郎助教協力のもと、静岡県が開発した避難所運営ゲーム(HUG訓練)を行いました。この訓練は枚方



避難所運営ゲームの説明を受ける参加者

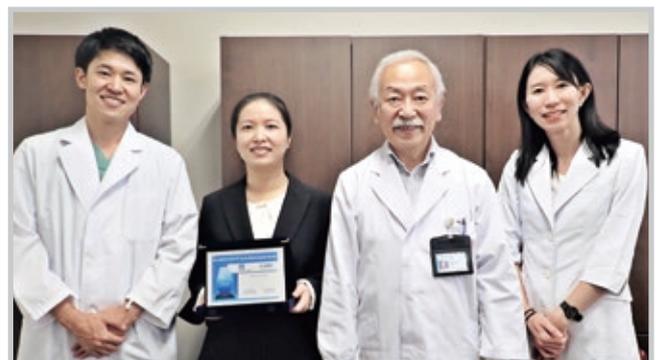
## 形成外科学講座大学院2年生馬医師が若手形成外科医賞受賞

大学院医学研究科医科学専攻形成外科学(楠本健司主任教授)2年生馬園園医師が、形成外科関連で世界最大級の学会「Plastic Surgery the Meeting(米国形成外科学会学術集会)」において、The ISPRES/ICOPLAST Young Plastic Surgeon Award(若手形成外科医賞)を受賞しました。この学会は約75か国から約4,000名が参加する世界最大規模のもので、若手形成外科医賞は再生医療関連の研究を行う35歳以下の形成外科医が対象です。応募者中から最終候補者3人が絞り込まれ、馬医師の研究テーマが受賞しました。

方法で採取でき、早期の実用化が望まれる体性幹細胞です。

なお、本件研究成果をまとめた論文が、英国科学誌「Stem Cell Research & Therapy(インパクトファクター4.6)」に掲載されました。

受賞した研究は脂肪幹細胞のFGF-2が増殖する際、既知の増殖経路だけでなく新たにプロテインキナーゼSrcが関与することを明らかにしたものです。脂肪幹細胞は骨髄幹細胞と同等の多分化能がある上に、比較的負担の少ない



受賞した馬医師(左から2人目)と、共同研究者の楠本教授(同3人目)・覚道准教授(右端)

大学・附属病院

## 附属病院・大学連携災害訓練

9月21日(土)9時から、大学・附属病院合同の災害訓練が実施されました。今回の訓練は医師や看護師ら教職員に今回から医学部生・看護学部生も加わり、さらには地域の連携医療機関見学者等を含む約820名が参加しました。昨年度までとは異なり、今年は大学と附属病院とが同時帯に訓練を実施。上町断層帯地震を想定し、発災と同時に担当の教職員が医学部生・看護学部生および大学所属の教職員を誘導し、避難集会所である医学部棟正面玄関前まで避難を行いました。

附属病院での訓練では、発災放送後、各部署の職員が一階の参集受付に参集。事務職・医技職を中心にアクションカードを用いて院内災害対策本部の立ち上げ、トリアージエリア・赤・黄・緑・黒の診療ゾーンの受け入れ準備を実施。診療担当の医師や看護師は、搬送されてきた傷病者に対してトリアージや処置、傷病者家族等への説明を緊張した面持ちで実施しました。今回は大規模災害時に遺族の心のケアを行うDMORTの方を講師とし

てお招きし、黒ゾーンの設営・受入れについての充実強化をはかりました。また初めての試みとして、大学での避難訓練終了後、授業の一環として、医学部・看護学部1~3年生は救命救急センター医師による災害に関する講義の受講、または「学生ボランティア」として災害訓練に参加。医学部4年生はグループに分かれ、附属病院の災害訓練の現場を間近に見学しました。



赤ゾーン(重症患者)の様子(右奥は見学する医学部生)

附属病院

## がんゲノム医療講演会開催

7月31日(水)19時から開催された「がんゲノム医療講演会 in Kyoto」が、本学枚方学舎医学部棟2階第4講義室にWeb中継されました。これは厚生労働省と文部科学省、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)が共催したもので、本学附属病院と京都大学医学部附属病院とのがんゲノム診療連携協定締結をきっかけに実施に至りました。

がんゲノム医療に関係する本学教職員らが参加したこの日のWeb中継講演では、京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学講座武藤学教授が司会を務め、京都桂病院腫瘍内科山口大介医長が「一般市中病院におけるがんゲノム医療連携病院としての取り組み」を、京都大学大学院医学系研究科病理診断学南口早智子准教授が「がんゲノム医療における病理組織検体の取り扱い」を、京都

大学医学部附属病院腫瘍内科金井雅史特定准教授が「これからのゲノム医療」をそれぞれ講演し、出席者は熱心に聞き入っていました。



Web中継されたプレゼンに聞き入る参加者

附属病院

## こども病棟で「夏祭り」

8月28日(水)18時30分から附属病院5階こども病棟において、「こども病棟夏祭り」が開催され、入院中の子どもたちやその保護者らが参加しました。この夏祭りは、単調な入院生活にメリハリをつけることでストレス発散の場となること、患児とその家族同士の交流の機会になることなどから、毎年開催されているものです。

患児たちによる「カントリーロード」の演奏で開幕した夏祭り。当日はあいにくの天候で室内のみでの開催となりましたが、子どもたちは親や浴衣姿の看護師と一緒に輪投げをしたり、似顔絵を描いてもらったりしながら夏祭りを楽しみました。

また、一般社団法人OSAKAあかるクラブ(サマーサクタ)からはマラソン開催によって集めた募金で購入し

たおもちゃや絵本などが子どもたちにプレゼントされました。



演奏する患児たち

**附属病院** “認知症”をテーマに市民公開講座を開催

9月7日(土) 14時から、附属病院13階講堂において「認知症とその予防について」をテーマに附属病院市民公開講座が開催され、市民ら140名が参加しました。附属病院澤田敏病院長が開会の挨拶を述べた後、脳神経内科峠理絵医師が「これって認知症？知っておきたい病気のこと」を、看護部沼田かおり認知症看護認定看護師が「認知症予防・家族の対応について」を、リハビリテーション科橋本晋吾作業療法士が「認知症のリハビリテーション」を、薬剤部田中雅幸薬剤師が「認知症治療薬と上手に付き合うコツ」を、栄養管理部深井里香管理栄養士が「認知症予防と食事～不足している栄養素はありませんか？～」を、地域医療連携部菊池利恵医療ソーシャルワーカーが「社会資源の利用・介護区分・施設案内」をそ

れぞれ講演。最後に看護部島村里香部長が閉会の挨拶を述べ、盛会裏に終了しました。



講演する橋本作業療法士

**総合医療センター** 第13回滝井セミナーを開催

8月8日(木)・9日(金)の2日間、総合医療センター南館2階臨床講堂において「第13回滝井セミナー—子どもを理解するために—」が開催され、小中高校の教員や養護教諭ら延べ234名が参加しました。これは大阪府立刀根山支援学校総合医療センター分教室が現場の教職員に、病を抱えた子どもたちに関する理解を深めてもらうため、教育の充実と発展を図ることを目的に開催されたものです。

1日目は刀根山支援学校中村昌子校長が挨拶した後、総合医療センター小児科柳本嘉時助教が「小児心身症～学齢期の心とからだ～」を講演。2日目には同助教が「起立性調節障がい理解と対応」を、同センター小児科石

崎優子部長が「摂食障害の理解と対応」を、それぞれ講演しました。両日とも会場を埋めた参加者は熱心に講演を聞き、質疑応答でも実際の教育現場に即した質問が多く飛ぶなど、教育関係者の熱意が伺われました。



来場者からの質問に答える石崎小児科部長

**総合医療センター** 総合医療センターサマーコンサート2019

8月17日(土) 14時～16時、総合医療センター本館1階正面玄関ホールにおいて「総合医療センターサマーコンサート2019」が開催され、入院患者さんやそのご家族など多数が参加しました。総合医療センター杉浦哲朗病院長の挨拶の後、第1部では大阪市旭区で活動している「こどもステージ」によるダンスやバレエが披露され、リズムよく踊る姿に参加者も一緒に体を揺らしていました。第2部では鶴見区音楽団による吹奏楽演奏が行われ「カーペンターズメドレー」や「嵐メドレー」などのヒット曲が披露されると参加者は手拍子を打ったり一緒に口ずさんだりしていました。併せて会場内では縁日や釣

りゲームなどの催しも行われ、参加者は夏のひと時を楽しんだ様子でした。



鶴見区音楽団(中央奥)による吹奏楽演奏

香里病院

## サマーコンサート開催

7月20日(土) 14時30分から香里病院2階エントランスホールにおいて「香里病院サマーコンサート」が開催され、入院患者さんやそのご家族など多くの方が参加しました。この日は香里ヌヴェール学院コーラスハンドベル部(中学生・高校生合わせて24名)が出演。ハンドベルでの軽快な演奏を披露したほか、演奏法による音色の違いについてユーモアを交えて紹介しました。

その後は合唱へ移り、「80年代メドレー」や「ほらね」「ヒカリノアトリエ」などを歌い上げ、ソロパートでは伸びやかな歌声に参加者は聞き入っていました。最後は「上を向いて歩こう」を全員で合唱し、盛況のうちに幕を閉じました。



エントランスホールで催されたコンサートの様子

香里病院

## 出張医療セミナーの開催

9月7日(土) 13時30分から、香里病院に隣接する高層マンションのザ・香里園タワーコミュニティサロンにおいて、「第5回出張医療セミナー」を開催し、同マンションの住民ら30名が参加しました。

このセミナーは2015年から毎年開催され、今回で5回目となり、整形外科上田祐輔部長が「骨粗鬆症とそれに伴う骨折について」、栄養管理部細見恭子管理栄養士が「元気を保つ食事について」という2題のテーマでそれぞれ講演を行いました。

住民からは講演後も熱心に質問がなされるなど、本テーマへの関心の高さが窺われました。また、10年後の骨折リスクがどのくらいあるのかチェックシートによる

簡易判定を行ったところ、こちらも好評であり、多くの参加者から判定依頼がありました。



講演を行う整形外科上田部長(写真中央)

## 関医訪問看護ステーション・くずは移転

8月1日、訪問看護ステーションの機能強化、充実のため、関医訪問看護ステーション・くずはが移転しました。住み慣れた地域やご家庭で療養生活を送っていただけるよう、看護師がご自宅を訪問し療養をお手伝いいたします。関西医科大学附属の4病院や近隣の医療機関と提携することで、専門性の高い看護と安心できる療養環境を提供いたします。

### ●サービス内容

- ① 病状の観察(血圧・体温・脈拍の測定、疾病の予防、健康管理、異常の早期発見)
- ② 在宅療養生活の支援(清拭、洗髪、入浴などの清潔の援助、食事水分栄養摂取の支援、排泄の支援)
- ③ 医療処置(床ずれの処置と予防、薬の管理、点滴、人工肛門・留置カテーテルなどの管理)
- ④ ご家族の支援(ご家族の介護負担軽減の支援)

●住所 大阪府枚方市楠葉花園町 4-10

●TEL 072-809-0928 ●FAX 072-800-1746



## 球技大会を開催

9月20日(金)9時15分から牧野キャンパス体育館において、附属看護専門学校球技大会が開催されました。本大会は附属看護専門学校学校祭「～闘え白衣の戦士たち～」の一環として開催したもので、2年生がクラスごとに2チームに分かれ3種目の競技を行いました。

開会式の後、ラジオ体操で体をほぐした学生は、バレーボール・バスケットボール・ドッジボールで白熱した戦いを繰り広げ、各チームとも熱が入り、得点が入るたびに大きな歓声を上げていました。全ての競技終了後には閉会式が行われました。



開会式の様子

## 2019年度学校祭開催

9月21日(土)9時から12時まで、牧野キャンパスにおいて2019年度附属看護専門学校学校祭が開催されました。今年度は「～闘え白衣の戦士たち～」をテーマに、教職員ならびに2・3年生152名が参加して運動会が行われました。

開会式の後、「三人四脚」、「箱の中身は何」、「借り人競争」、「大玉送り」、「リレー」、「玉入れ」が行われ、学生と教員が協力しながら各競技に取り組みました。また、「大玉送り」と「玉入れ」には楠本健司学校長が飛び入り参加され、学生も大いに盛り上がりました。

最後に飾るリレーは、真剣そのもので体育館内に大きな声援が響きました。

結果発表の後に閉会式が行われ、牛嶋百合子教務部長からねぎらいの言葉がかけられ学校祭は閉会しました。



白熱するリレー



## レジナビフェア2019大阪 ～臨床研修プログラム～

7月7日(日)10時からインテックス大阪(大阪市住之江区)1・2号館において、「レジナビフェア2019大阪～臨床研修プログラム～」が開催され、本学もブースを開設しました。当日は約2,160名の来場者があり、本学のブースを訪れた142名に、本学の研修医7名が対応。終始和やかな雰囲気での話が進み、盛会裏に終わりました。



本学ブースの様子

## 学会主催報告

2019年7月～9月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

## 第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会

■会期 2019年7月13-14日 ■場所 大阪国際会議場

第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会を7月13日から木村稔教授が会長となり、2日間開催しました。メインテーマは「心リハイノベーションー行動医学からICTまでー」とし、新しい心臓リハビリテーションの構築を今一度考え、進化させることを目的としました。日本の現状を世界に発信し、かつ新たな知見の交換の場としてヨーロッパやアメリカおよびアジア諸国とのJoint Sessionも行い、活発な議論が行われました。参加者は過去最高の6,300名となり、盛大な会となりました。

【会長：健康科学教室 木村 稔 教授】



## 学会賞受賞等情報

2019年7月～9月の学会賞受賞および助成金採択者を紹介します。

## AGSurg Reviewer Award 2019

外科学講座 里井 壯平 診療教授

■テーマ 当該前年1年間の「Annals of Gastroenterological Surgery」査読者のうち、ジャーナルの発展に深く寄与した者に贈られる

■授与学会 一般社団法人日本消化器外科学会

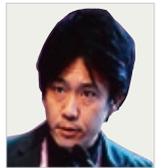


## 第12回日本骨・関節感染症学会奨励賞(大正AWARD)

整形外科講座 植田 成実 助教

■テーマ 整形外科手術における超音波処理を用いたインプラント周囲感染の診断

■授与学会 第42回 日本骨・関節感染症学会



## 第7回 優秀論文賞

小児科学講座 辻 章志 准教授

■テーマ The Effect of Family Assistance to Wake Children with Monosymptomatic Enuresis in Alarm Therapy:A Pilot Study

■授与学会 第28回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会



## 最優秀ポスター賞

整形外科講座 外山 雄康 助教

■テーマ 超音波処理法による骨・軟部組織感染症の診断

■授与学会 第42回 日本骨・関節感染症学会



## Best Paper賞

整形外科講座 申田 剛俊 准教授

■テーマ 椎間板上を走行する分節動脈の解剖学的評価 - XLIF 術中操作の注意点 -

■授与学会 第26回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会



## 学会賞 動画部門

産科学・婦人科学講座 佛原 悠介 助教

■テーマ 光学的診断(PDD)を利用した 広汎子宮全摘術における腔壁切除ラインの設定

■授与学会 第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会

## 第7回 優秀論文賞

小児科学講座 山内 壮作 講師

■テーマ Urinary C-megalin for Screening of Renal Scarring in Children after Febrile Urinary Tract Infection

■授与学会 第28回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会



## 奨励賞

小児科学講座 赤川 翔平 助教

■テーマ 夜尿症治療におけるデスマプロリン製剤への反応性の性差

■授与学会 第30回日本夜尿症学会・第4回日韓夜尿症学会合同学術集会



## 平成30年度日本病理学会学術奨励賞

臨床病理学講座 大江 知里 講師

■テーマ 高悪性度腎癌における分子病理学的異常と関連する組織形態の解析

■授与学会 第108回日本病理学会総会



## 学会賞

小児科学講座 赤川 友布子 助教

■テーマ ST合剤による持続的少量抗菌薬予防投与が乳幼児の腸内細菌叢に及ぼす影響

■授与学会 第28回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会



## 優秀演題賞

健康科学教室 黒瀬 聖司 助教

■テーマ 維持期高齢心疾患患者における身体活動量の増減を規定する因子・多施設共同研究による検討 -

■授与学会 第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会



## 優秀演題賞

リハビリテーション医学講座

ムンフデルゲル・ドルジラブダン 大学院生

■テーマ 肥満患者における歩き方の違いが歩行立脚期の膝関節内転モーメントに及ぼす影響

■授与学会 第44回日本運動療法学会学術集会



## 最優秀論文賞

整形外科講座 石原 昌幸 助教

■テーマ 成人脊椎変形術後 proximal junctional kyphosisの原因はrod contourである

■授与学会 第27回日本腰痛学会





## 教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。

(主に2019年7月1日～9月30日 ※判明分のみ)

関西医科大学	毎日新聞 夕刊 (7月12日)	本学が6月から開講した看護師向け復職支援事業「関医・看護師リカレントスクール」が取り上げられ、1期生の様子や受講しての感想、スクールの概要などが紹介されました。
医学部4学年学生 高島 寛之 さん	m3.com (7月31日更新)	高島さんが「2019東医体・西医体特集Vol.5」において、第71回西日本医科学学生総合体育大会(西医体)の運営委員長としてインタビューに応じ、自身の西医体での思い出や運営委員長に就任した経緯と今大会の運営状況、今年のスローガンに込めた思いなどについて語りました。
関西医科大学	日刊工業新聞 (8月1日)	本学が、医学研究や開発試作・医療関連機器の製品化スピードの向上を狙い、株式会社木幡計器製作所と医療領域における事業創出および人材育成に関する連携協定を結んだことが紹介されました。
救急医学講座 鉦方 安行 教授	MBSラジオ「かめばかむほど亀井希生です!」 (8月3日)	救急医学講座鉦方安行教授が「ドクターM」コーナーに出演し、水辺の事故をテーマに溺れた方への対処法などを解説しました。
内科学第三講座 岡崎 和一 教授	日本経済新聞 朝刊 (8月5日)	体内の様々な場所に炎症が起こってしこりを生じる難病「IgG4関連疾患」の特集記事において、「約10年前からIgG4関連疾患が医師の間でも知られるようになった」との岡崎教授のコメントが掲載されました。
救急医学講座 鉦方 安行 教授	MBSラジオ「かめばかむほど亀井希生です!」 (8月17日)	「ドクターM」コーナーで、熱中症の症状やメカニズム、対処法などを鉦方教授が解説しました。
本学体育会サッカー部	m3.com (8月18日更新)	本学体育会サッカー部が、第71回西日本医科学学生総合体育大会サッカー大会において優勝したことが「2019 東医体・西医体特集Vol.42」で取り上げられ、サッカー部所属の医学部4学年学生永田裕太郎さんと競技責任者である同・山岸宙さんの試合後インタビューが掲載されました。
医化学講座 中川 学 講師	健康産業流通新聞 (8月22日)	ペルー原産の豆類・タルウィから作る大豆発酵食品「テンベ」の普及と健康効果や美味しさを追究する日本テンベ協会の研究発表会で中川講師が講演したことおよび同講師のコメントが紹介されました。
医化学講座 中川 学 講師	ヘルスライフビジネス (9月1日)	ペルー原産の豆類・タルウィから作る大豆発酵食品「テンベ」の普及と健康効果や美味しさを追究する日本テンベ協会の研究発表会で中川講師が講演したことおよび同講師のコメントが紹介されました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	NHK「ニュース845」 (9月9日)	里井診療教授らが実施した、腹膜に転移した膵がんの新治療法に関する臨床試験実施のためのクラウドファンディングが9/8(日)に締め切りを迎え、当初目標の3.5倍を超える3,500万円以上が集まったことが取り上げられ、里井診療教授のコメントが放映されました。
救急医学科 櫻本 和人 診療講師	朝日放送「キャスト-CAST-」 (9月9日)	櫻本診療講師の密着取材が行われ、附属病院高度救命救急センターで患者さんの治療にあたる様子や、患者さんとのコミュニケーション、若手医師への指導方法など救急の現場でリーダーの1人として活動する様子が紹介されました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	読売新聞・毎日新聞・産経新聞・日経新聞 朝刊 (9月10日) 読売新聞 夕刊 (9月9日)	里井診療教授らが実施した、腹膜に転移した膵がんの新治療法に関する臨床試験実施のためのクラウドファンディングで、最終日の9/8(日)までに当初目標の3.5倍を超える3,500万円以上の寄付が集まったことが取り上げられ、同教授のコメントが掲載されました。
山下 敏夫 理事長	日経ヘルステア 2019年9月号(9月10日)	本学が中心となり2019年6月に大阪府から地域医療連携推進法人として認可された「北河内メディカルネットワーク」の発足趣旨や、今後の事業展開について述べた山下理事長のインタビュー記事が掲載されました。
呼吸器外科学講座 金田 浩由紀 准教授	日本経済新聞 朝刊 (9月10日)	金田准教授と、本学と連携協定を結んだ木幡計器製作所(大阪市)とで共同開発した肺気胸の診断機器が医工連携に関する記事の中で取り上げられ、同診断機器の医療機器承認申請が2019年度中にも行われる予定であること、及び金田准教授のコメントが紹介されました。
附属生命医学研究所 ゲノム解析部門 三澤 計治 講師	日経産業新聞電子版 (9月24日更新)	三澤講師が開発に携わった、たんぱく質の構造やDNAの配列を解析するソフトウェア「MAFFT(マフト)」について、開発の経緯やその概要が紹介されました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	枚方つーしん (9月24日更新)	里井診療教授らが実施した、腹膜に転移した膵がんの新治療法に関する臨床試験実施のためのクラウドファンディングにおいて、目標金額を大きく上回る3,500万円以上集まったことが紹介されました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	読売新聞 朝刊 (9月25日)	宮下診療教授が、ウイルスはたんなどの粘液に含まれているとアルコール消毒の殺菌効果が弱まるとの研究結果に関して述べたコメントが掲載されました。
放射線科学講座 中村 聡明 准教授	朝日新聞 朝刊 (9月29日)	中村准教授が、「がん研究の深化」から「がん治療の進化」へをテーマに行われた日本癌学会市民公開講座において、がんを狙い撃つ最新の放射線治療などについて講演を行ったことが紹介されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

今号の表紙は、枚方学舎医学部棟に掛かるモネの《睡蓮》。睡蓮といえば、総合医療センターホスピタルガーデンの池は、モネの《睡蓮》をモチーフとしているのをご存じでしょうか。池には睡蓮が植わっており、初夏から初秋にかけて花を咲かせます。ホスピタルガーデンは、患者さんのリハビリテーションや患者さん・ご家族の憩いの場として設けられていますが、一般の方にもご利用いただけます。開放時間等は本学サイトでご確認ください。暖かい季節の方がおすすめです。(さ)

## 関西医科大学広報 Vol.47

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)

FAX 072-804-2638

<http://www.kmu.ac.jp/>E-mail : [kmuintfo@hirakata.kmu.ac.jp](mailto:kmuintfo@hirakata.kmu.ac.jp)

2019年12月13日(金)発行